

# Economic Indicators

発表日: 2021年10月8日(金)

## 国際収支(2021年8月)

～貿易収支の赤字転化により、経常収支も黒字幅縮小～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支	
					貿易・サービス収支			
					貿易収支	サービス収支		
2020	4月	2,065	2,643	▲ 13,087	▲ 9,172	▲ 3,916	17,172	
	5月	10,685	7,717	▲ 7,721	▲ 4,170	▲ 3,552	17,215	
	6月	1,483	11,482	▲ 3,830	▲ 1,380	▲ 2,450	17,092	
	7月	15,352	11,349	▲ 2,450	840	▲ 3,290	15,195	
	8月	20,852	16,222	733	4,595	▲ 3,863	17,499	
	9月	16,639	13,542	3,714	6,857	▲ 3,143	16,642	
	10月	21,108	19,549	4,751	7,193	▲ 2,442	17,086	
	11月	18,949	22,964	6,369	9,062	▲ 2,694	19,070	
	12月	12,791	21,588	5,243	8,105	▲ 2,862	18,251	
	2021	1月	6,689	15,462	3,598	6,565	▲ 2,967	14,866
		2月	29,427	18,704	▲ 2,238	▲ 123	▲ 2,116	22,745
		3月	26,493	16,970	4,203	7,924	▲ 3,720	14,333
4月		13,241	15,508	▲ 1,588	3,381	▲ 4,969	19,235	
5月		19,814	18,715	722	4,366	▲ 3,643	19,769	
6月		9,095	17,841	▲ 877	2,234	▲ 3,112	20,704	
7月		19,108	14,134	▲ 1,315	3,410	▲ 4,725	18,154	
8月		16,656	10,426	▲ 3,691	▲ 841	▲ 2,850	15,413	

(出所) 財務省「国際収支統計」

### ○8月の経常収支(季節調整値)は、貿易収支の赤字転化により黒字幅縮小

8月の経常収支(原数値)は16,656億円の黒字(コンセンサス: 15,180億円の黒字、レンジ: 12,020億円の黒字～18,334億円の黒字)となった。季節調整値では、10,426億円の黒字(7月: 14,134億円の黒字)となった。貿易収支が6カ月ぶりに赤字転化したことにより、経常収支は先月からさらに黒字幅が縮小した。

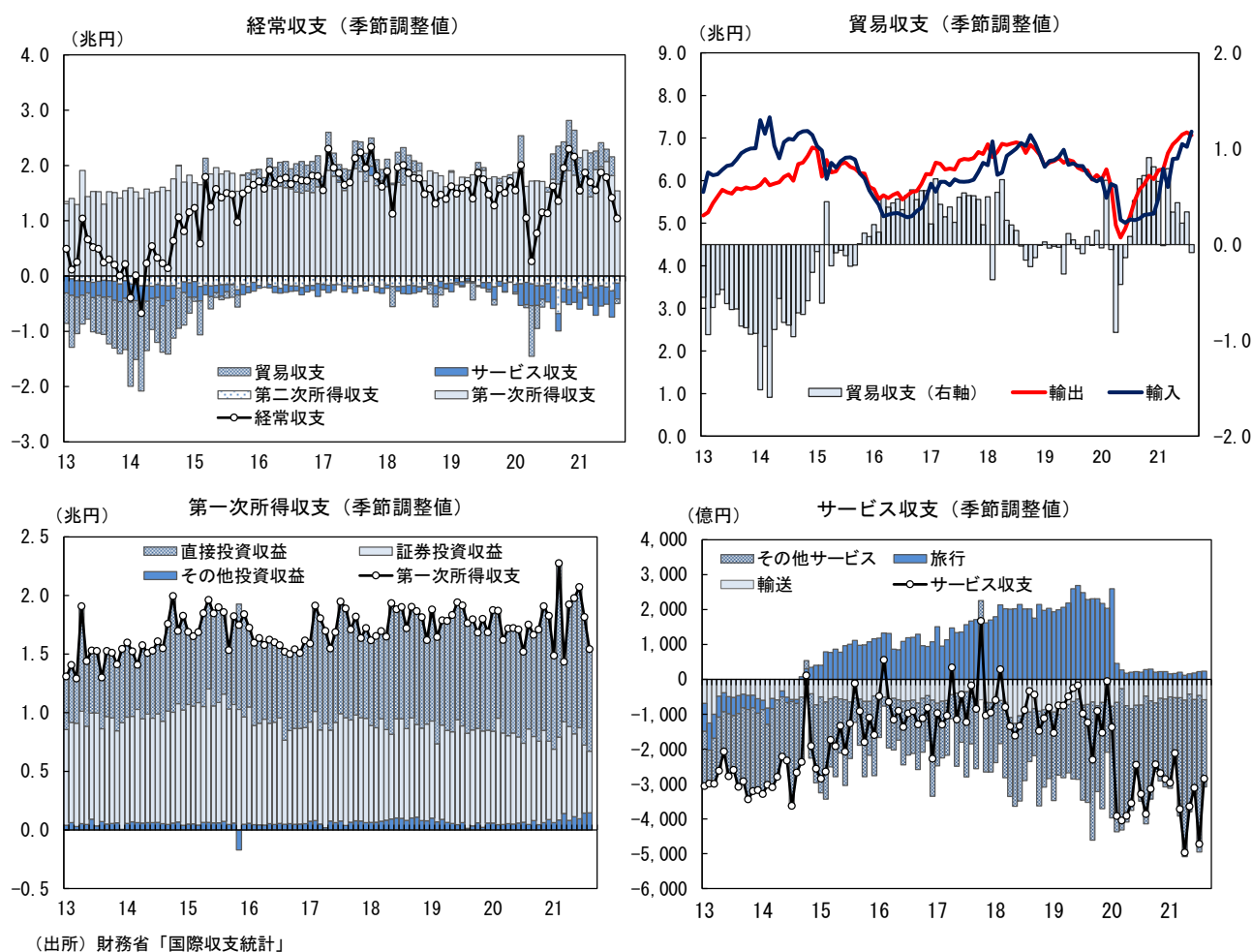
8月の経常収支(季節調整値)を項目別にみると、次の通り。貿易・サービス収支は、サービス収支の赤字幅が縮小したものの、貿易収支が赤字転化したことで、▲3,691億円の赤字と、7月(▲1,315億円の赤字)から赤字幅が拡大した。貿易収支は、輸入が原油価格上昇や先月からの反動増により前月比+5.3%と急伸した一方で、輸出が自動車減産の影響を受け、前月比▲0.9%と減少したことで赤字転化した。サービス収支は、その他サービス収支の赤字幅が縮小したことで、先月から赤字幅縮小となった。なお、旅行収支については、8月は東京オリンピック、パラリンピック開催に伴い訪日外客数が増加したものの、厳しい入出国制限が続いていることから、依然として底を這う推移が続いている。第一次所得収支は15,413億円の黒字(7月: 18,154億円の黒字)となった。直接投資収益の黒字幅が縮小したが、均せば横ばい圏内での推移が続いており、所得収支は振れを伴いながら堅調な推移を継続している。

## ○今後は貿易収支の赤字推移により、経常収支も黒字幅縮小が続く。

経常収支の先行きについては、次のように見込む。貿易・サービス収支については、サービス収支が横ばい圏内での赤字推移が続く一方で、貿易収支は赤字幅拡大が続くことで、当面は赤字幅の拡大が続くだろう。貿易収支については、半導体不足や部品調達難によって、9月、10月も自動車産業での大幅減産が見込まれており、輸出の増加ペースは鈍化が続くと予想される。さらに、足元では中国経済の減速も顕著となってきており、これまで輸出を牽引してきた対アジア向け輸出も弱い動きとなる可能性が高まっている。一方、輸入は、エネルギー価格の高騰等を反映して、来月以降も高水準での推移が続くと見込まれる。当面は、輸入が輸出を上回ることにより、貿易収支は赤字推移が続くだろう。サービス収支については、赤字での横ばい推移が続くとみる。本格的な入国制限緩和には当面時間がかかるとみられることから、旅行収支の改善は限定的なものになるだろう。

所得収支については、海外経済の回復と企業の積極的な投資意欲を背景として、直接投資、証券投資とともに横ばい圏内での堅調な推移が見込まれる。

その結果、経常収支は貿易収支の赤字幅拡大を主因として、当面は黒字幅を縮小させる展開が続くだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。